

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	270200967		
法人名	社会福祉法人七峰会		
事業所名	グループホームアップル		
所在地 (電話番号)	〒036-8302 青森県弘前市高杉字尾上山349 (電話) 0172-97-2778		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 8月 24日	評価確定日	平成 19年 10月 15日

【情報提供票より】(平成 19年 7月 20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・ <del>平成</del> 13年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 2人, 非常勤 5人, 常勤換算	6.4 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋平屋造り		
	1階建ての 階 ~ 1階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	7,500 円	その他の経費(月額)	7,170 ~ 冬季8,670 円
敷金	有( 円) <del>無</del>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) <del>無</del>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢 平均	84 歳	最低	66 歳
		最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	桔梗野こども・おとなクリニック・藤代健生病院・小泉歯科
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲をリンゴ畑に囲まれた静かな場所に立地されている。母体施設の特別養護老人ホームに隣接されて緊急時の対応や介護の連携がとられており、安心した生活ができる体制がある。音読療法などの認知症ケアについての手法を積極的に取り入れており、効果を確認しながら継続的に実践されており、入居者の方が落ち着いて生活できるように支援されている。入居されている方も、ほのぼのとした雰囲気が見られ、日常のケアでの努力が感じられる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	特に課題とされた改善内容はなかった。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員間での話し合いや運営推進会議等の場で検討項目として話し合われており、具体的な対策を実行できる体制がある。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者の介護に関することや施設の行事など対応に関すること、入居者や家族の意見を聞いて今後に生かしていくこと、地域とのつながりに関することなど話し合われており、継続的に取り組まれている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	意見については面会の都度、話しに出やすいように配慮されており、家族から具体的な話があった場合は、いろいろな場面で話し合っ対応できる態勢がある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設の行事では近隣の住民を招待したりして、開放的な雰囲気を作ろうとしている。周囲の畑で作業している方も気軽に立ち寄れる環境がある。又、地域の一員としての活動にも参加している。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体施設の理念をもとに、事業所独自で入居者の介護にあたっての理念を作っている。今後は地域密着型の理念として見直しを図りながらつくりあげていきたい。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、ホールに掲げ全職員共有している、自分で見やすいようにケースに入れたりして工夫し、いつでも確認ができるように持ち歩いている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の集落と離れている場所に立地されているが、回りの畑作業にこられる方達が時折立ち寄り、利用者とお茶を飲んだりして交流したり、語り部を呼び地域の方も参加し楽しまれたりといった関係づくりがなされている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>サービス評価の意義を全職員に伝え、職員は自己評価、外部評価を実施する必要性を確認している。又、評価の際、取り組みが必要と判断されれば話し合いの場がもたれ、改善に取り組まれている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回、家族、民生委員、包括支援センター等の参加によりサービスの評価への取り組み状況について報告、話し合いがなされている。議事録もとられており、内容も具体的に取組まれていることが感じられる。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者が運営推進会議に参加されている他、困難事例が発生した場合相談相手になってもらえる環境にある。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>内部研修にて地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の内容について職員間で学ぶ機会がもたれ、家族にも連絡している。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者が職員に「高齢者虐待防止関連法」の基礎知識を具体的に説明し、利用者が不利益にならないように努めている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居利用契約書で、重要事項説明書とふせて説明されている。また、重度化した際や看取りの対応などについても書面で説明されている。		
10	12	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当職員からコメントを付け、月1回お便りとして郵送しており、出納帳のコピーは希望時いつでも送付出来るようにしている。		
11	13	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱が設置されている。意見箱に投函されていない問題でも家族面会時等会話、態度から職員がくみ取るように配慮している。		
12	16	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えられており、母体施設より利用者が顔なじみの職員異動に心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修は希望があれば参加出来るようにしている。母体施設の研修、グループホーム独自の研修の機会を設け必要に応じて各自参加している。又園外研修参加者は全職員に還元出来るように努めている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会に加入されており、開催があれば参加はしているが機会が少ない。</p>		<p>職員が相互訪問、情報交換の機会が少ないため、同業者と連携を取りながら相互に交流できサービスの向上に役立てることが出来る機会を作っていくことに期待したい。</p>
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居する前に、何回かホームを訪問してもらい、過ごしていただきながら、様子を見て入居にいたるよう対応されている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員、本人と一緒に食事の準備や後かたづけ、畑作り等を通じて、和気あいあいとした雰囲気生活されている。入居者の方からも積極的に話のしやすい環境が作られている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念を念頭に置き介護計画作成し、計画に基づいて処遇がなされてる。		言葉での表現が困難な利用者については、意向をくみ取り、本人の希望、思いをプランに盛り込むことを希望したい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望を取り入れ、地域でその人らしく暮らし続ける為関係者間で話し合いのもと介護計画が作成されている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しが行われている、状態変化時は各関係者と話し合い介護計画の見直しを行っている。		
20	36	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	少人数ゆえの温かみのあるコミュニケーションなどがみられ、本人家族の要望する病院や施設などの利用がされている。		


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のある方は継続し、その他嘱託医の診察、それぞれ適切な病院受診がされている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応指針に基づき「その人らしい」生活を送れるように計画作成し対応している。対応できない場合は母体の老人施設と連携を取っていく体制があり、本人家族に説明されている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助時等ペースにあわせトイレ誘導、座る所までさりげなく介助している。個別の記録等の保管も戸のついた場所に整理されている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、食事、排泄等の介助を行っている。朝、昼、夕の引継時に状態報告し日誌や申し送り帳に記入している。また、見落としのないように確認表にサインを入れ、希望にそって支援されている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備、後かたづけを職員と一緒にしている。当日出勤職員全員が3食ともに食事をともにし、後かたづけは和気藹々で行われている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に応じて、入浴できるよう支援されている。又、汗をかいた後など希望により、シャワー浴を行ったり、足浴を実施したりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時のアセスメントファイルの生活歴より本人の楽しみごとを見いだしている、日めくり、朝夕の新聞受け取り、食事準備、片づけ等の場面づくりをしている。		
28	58	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	おやつの買い出し、床屋、病院受診、ドライブ、朝の散歩等個々の能力により、外出を楽しめるよう支援されている。		



外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を職員が理解し、ボードに貼り付けいつでも確認できるようにし取り組まれている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険な場所など以外は開放的であり、職員の見守りのもと、庭に出たり、洗濯物を干しにでたりして自由な雰囲気を感じられる。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の他、母体施設の避難訓練に参加している、緊急連絡体制表も作成されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態変化時等、食事摂取量、水分摂取量の少ない利用者については状態を把握して、ケースに記録し看護師にて確認して対応している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各感染症毎にマニュアルを作成し、いつでも確認できる体制である。母体施設とも相談し感染予防に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>各</b> <b>(1)居心地のよい環境づくり</b></p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テレビの音量調整は、利用者自身で行ったりしているが、その場に合わせた職員が調整している。前庭にはベンチ、テーブルを置き利用者の交流の場となっていて、ホールの中も観葉植物等が置かれ居心地よく過ごせるように工夫されている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の使い慣れた家具、排泄用具が持ち込まれ利用されている。又自分の得意とする作品を飾ったりしてそれぞれ居心地よく過ごすことが出来るように支援されている。</p>		

 は、重点項目。